神奈川県

平成 28 年度全国学力・学習状況調査

神奈川県公立小・中学校の調査結果（詳細版）

Ⅰ　調査結果のポイント

県教育委員会では、平成 28 年４月 19 日に実施された全国学力・学習状況調査の「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」「教科に関する調査」を総合的に分析する中で、本県の強みと課題を整理しました。

かながわの【強み】と＜課題＞

【強み１】授業での活発な言語活動（話し合い活動等）により、児童・生徒の「伝えたいことを適切に話す力」が養われています！

【強み２】児童・生徒の国語、算数・数学の授業に対する意欲的な姿勢が見られます！

【強み３】外部講師を積極的に活用した校内研修が行われています。また、小中連携しての授業研究が活発になっています！

＜課題１＞学校は、一人ひとりの児童･生徒が学んだことをしっかりと身に付けるために、自ら学ぶ習慣作りを進めることが必要です！

＜課題２＞学校は、全ての児童･生徒が自己肯定感をもち、夢や目標に向かう意欲をさらに高めていくことが必要です！

各学校で行っている授業改善の取組が、確実に児童・生徒の授業に対する意欲的な姿勢や、「伝えたいことを適切に話す力」につながっています。

市町村や学校では、この調査結果を参考にそれぞれの地域での課題に取り組み、県教育委員会は、今後も、各地域で行われた効果的な取組を集め、発信していきます。

＜目次＞

Ⅰ　調査結果のポイント

【強み１】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
【強み２】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
【強み３】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
＜課題１＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
＜ここに注目１＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
＜課題２＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
＜ここに注目２＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

Ⅱ　神奈川県公立小・中学校の調査結果について　資料編

1　本調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
2　教科に関する調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
3　質問紙調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

Ⅲ　神奈川県教育委員会の主な取組について・・・・・・・・・・・・・・・ 18

グラフの見方

○次の 3 カ年を抽出してその数値をグラフに表しました。

- 設問の開始年度
- 中間の年度
- 平成 28 年度

○各グラフの数値は、それぞれの設問に肯定的な回答をした人数及び学校数の割合を％で表しています。

○実線は本県を表し、破線は国を表します。また、国の数値は斜体で表しました。

【強み１】授業での活発な言語活動（話し合い活動等）により、児童・生徒の「伝えたいことを適切に話す力」が養われています！

児童・生徒が話し合い活動に向かう姿勢が向上しています。そのことと、国語の「話すこと・聞くこと」領域や数学の「数学的な見方や考え方」の観点での平均正答率との関連が考えられます。

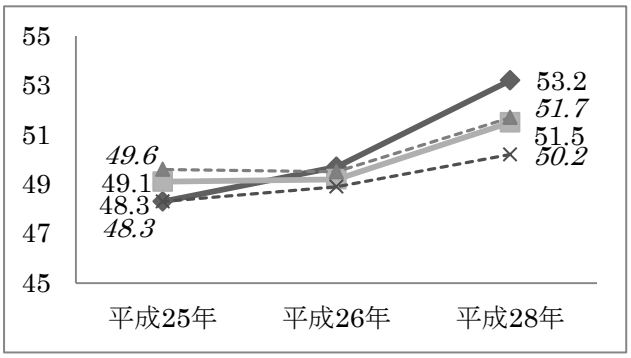
こうしたことの背景には、学校において、教員が、言語活動を重視した授業改善を進めていることや「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業」を意識的に行っていることがあると考えます。

※凡例　県(小)　県(中)　国(小)　国(中)

（県は神奈川県、国は全国のそれぞれ平均値を示す。）

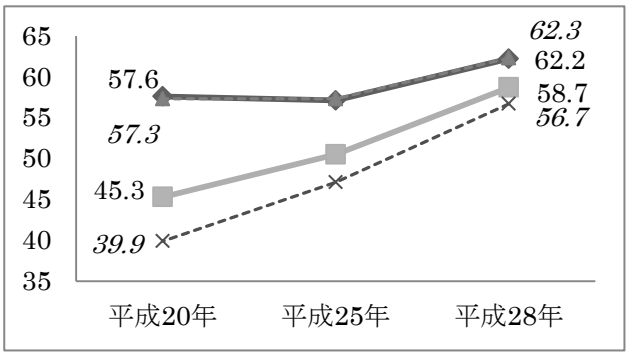
児童生徒質問紙から

Q7. 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



小・中学校ともに全国平均を上回り、経年変化も向上している。

Q67. 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。



中学校は全国平均を上回り小学校は全国と同等で、経年変化は、小・中学校ともに向上している。

教科に関する調査から

【小学校】

国語Ａの「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率　神奈川県　79.9%　全国　79.2%

国語Ｂの「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率　神奈川県　52.1%　全国　51.1%

算数Ｂの「数学的な考え方」の観点における平均正答率

神奈川県　40.8%　全国　40.9%

【中学校】

国語Ａの「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率　神奈川県　79.5%　全国　78.9%

数学Ｂの「数学的な見方や考え方」の観点における平均正答率

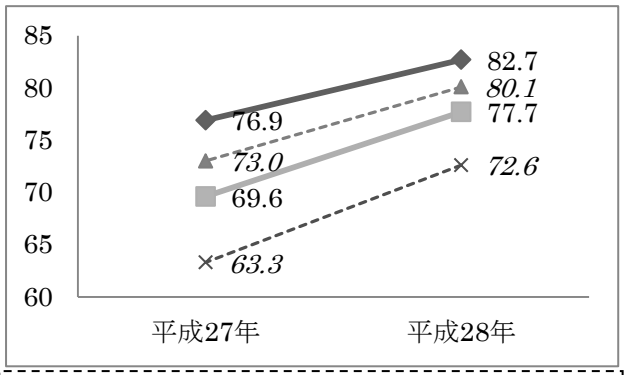
神奈川県　39.5%　全国　38.9%

小・中学校ともに国語の「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率は、全国平均を上回っている。
数学の「数学的な見方や考え方」の観点における平均正答率は、全国平均を上回っている。

学校質問紙から

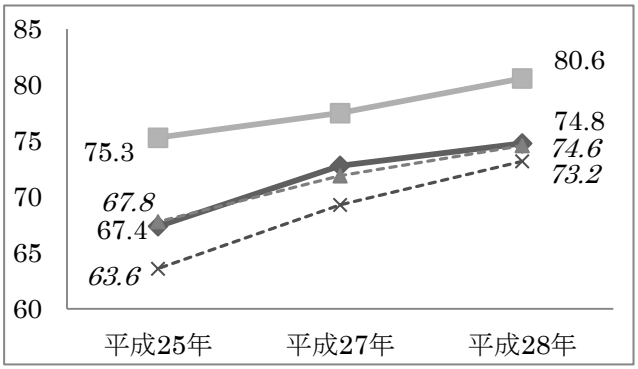
※凡例　県(小)　県(中)　国(小)　国(中)

Q.44　前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。



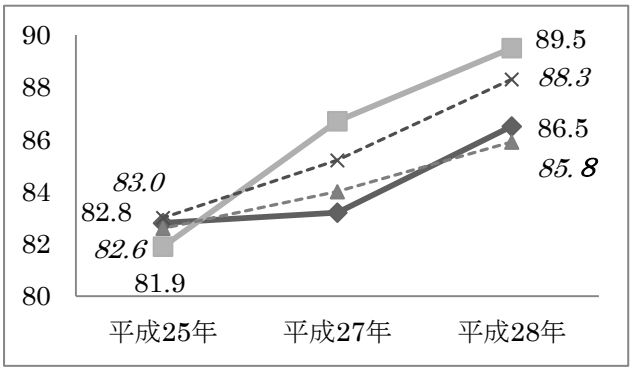
小・中学校ともに全国平均を上回り、経年変化も向上している。

Q17 児童生徒は学級やグループ活動での話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか。



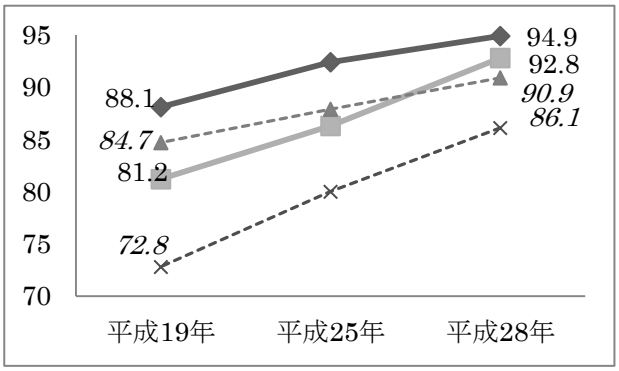
小・中学校ともに全国平均を上回り、経年変化も向上している。

Q.18 児童生徒は学級やグループ活動での話合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか。



小・中学校ともに全国平均を上回り、経年変化も向上している。

Q.69　国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。



小・中学校ともに全国平均を上回っている。特に中学校は５ポイント以上上回っている。また経年変化も向上している。

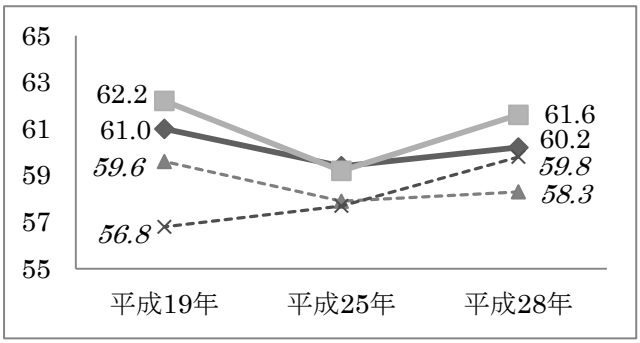
【強み２】児童・生徒の国語、算数・数学の授業に対する意欲的な姿勢が見られます！

児童・生徒の授業に対する前向きな姿勢がみられています。教員は、児童・生徒の授業に向かう熱意を感じ取っています。また、授業での規律も向上していると感じています。児童・生徒の授業に向かう姿勢、学習意欲は、知識・理解や思考力・判断力・表現力等とともに、確かな学力を形成する大切な力です。

児童生徒質問紙から

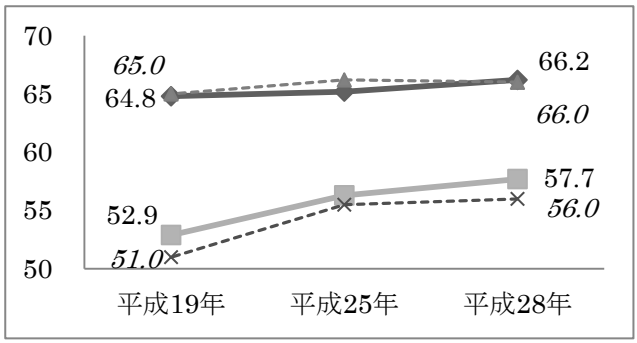
※凡例　県(小)　県(中)　国(小)　国(中)

Q.61　国語の勉強は好きですか。



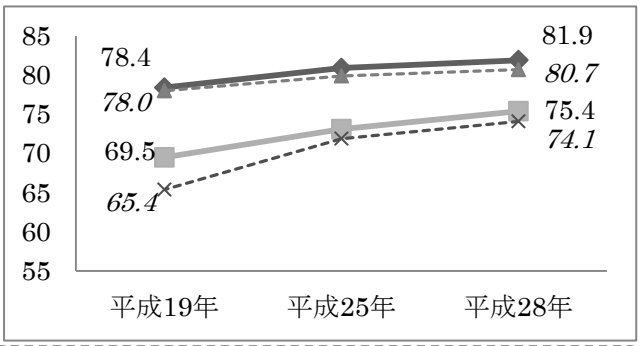
小・中学校ともに全国平均を上回っている。

Q.71　算数(数学)の勉強は好きですか。



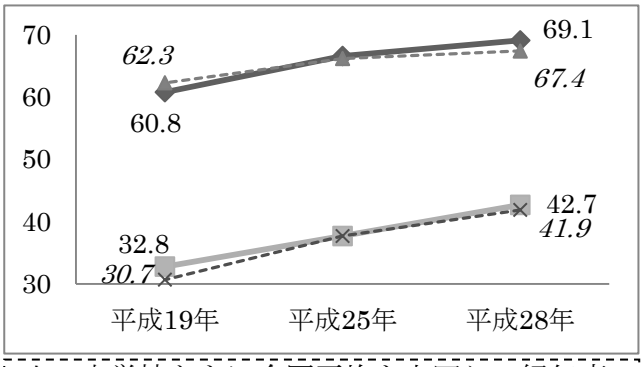
小・中学校ともに全国平均を上回り、経年変化も向上している。

Q.63 国語の授業の内容はよく分かりますか。



小・中学校ともに全国平均を上回り、経年変化も向上している。

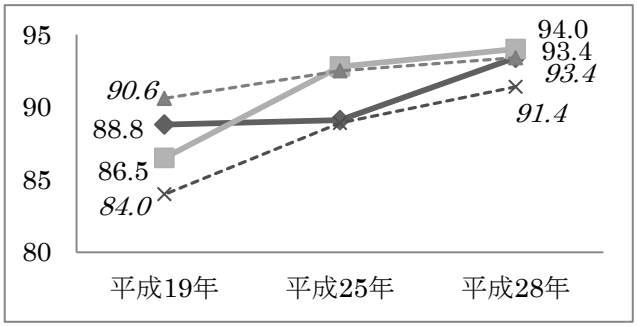
Q.76　算数(数学)での学習を普段の生活で活用できないか考えていますか。



小・中学校ともに全国平均を上回り、経年変化も向上している。

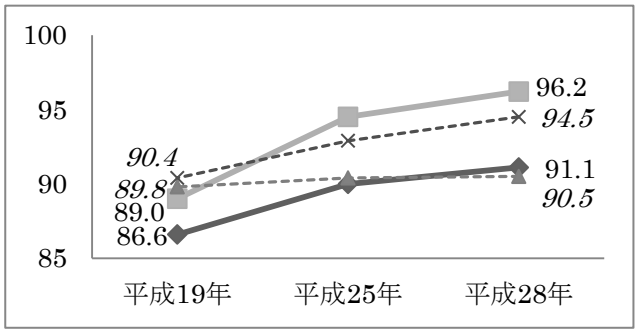
学校質問紙から

Q.14　児童生徒は熱意をもって勉強していると思いますか。



中学校は全国平均を上回り、小学校は全国と同等で、経年変化は、小・中学校ともに向上している。

Q.15 児童生徒は授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。



小・中学校ともに全国平均を上回り、経年変化も向上している。

【強み 3】外部講師を積極的に活用した校内研修が行われています。また、小中連携しての授業研究が活発になっています！

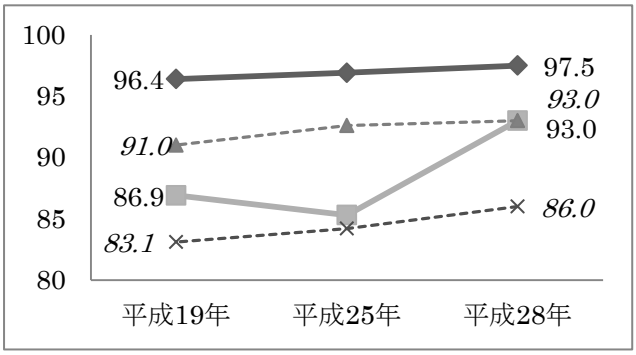
各学校では、外部講師を積極的に活用するなど、学校全体での授業研究が活性化しています。外の視点を入れることで、多様な視点からの授業改善につながります。今後も、各学校での多様な取組を他地域と共有することで、かながわ全体の強みとしてさらなる充実が期待できます。

また、学校間の小中合同研修や教職員同士の交流等が積極的に行われています。今後も小・中学校で、めざす子ども像を共有し、9 年間を貫く教育課程の共有等が進むことが期待できます。

学校質問紙から

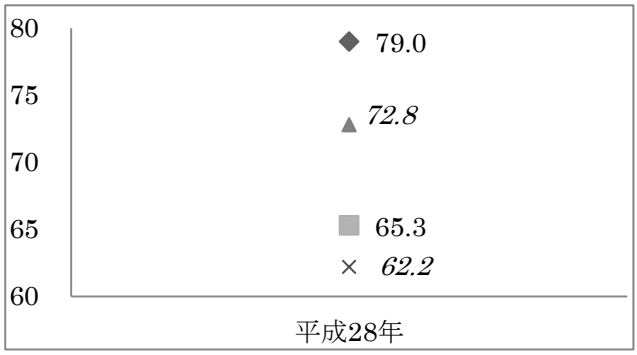
※凡例 ◆ 県(小) ■ 県(中) ▲ 国(小) × 国(中)

Q.(102,100)学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。



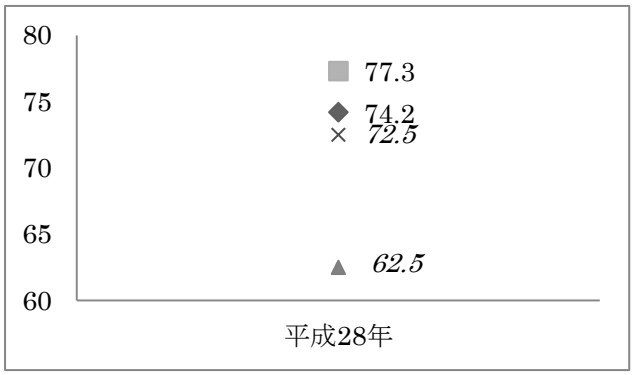
小・中学校ともに全国平均を上回り、経年変化も向上している。

Q.(103,101)都道府県や市町村の指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校していますか。



小・中学校ともに全国平均を上回っている。

Q.(80,79)前年度までに、近隣の小学校(中学校)と、授業研究を行うなど，合同して研修を行いましたか。



小・中学校ともに全国平均を上回っている。

Q.(81,80)前年度までに、近隣等の小学校(中学校)と意見を交換し合うなど、教員同士の交流を行いましたか。

小・中学校ともに全国平均より５ポイント以上上回っている。

＜課題１＞学校は、一人ひとりの児童･生徒が学んだことをしっかりと身に付けるために、自ら学ぶ習慣作りを進めることが必要です！

教科の調査問題Ａ（主として知識に関する問題）において、全国平均正答率よりも ５ ポイント以上低い設問が多くありました。児童・生徒が自らの学習を振り返り、どこができるようになったのか、どこがまだ分からないのかを、自分自身で把握（自己評価）し、分からなかったことをじっくりとまずは自分で考えることが大切です。

学校では、一人ひとりの児童・生徒が授業以外の場で、自らの学習を進めることができるよう、そのきっかけを与えたり、方法を丁寧に教えたりする等、補充学習や家庭学習を含め、個に応じてきめ細かく導くことが必要です。

教科に関する調査から（国語、算数・数学）

各調査の中で、全国公立学校の平均正答率より５ポイント以上低かった設問

【小学校】

・国語Ａ　「漢字の読み書き」（６問中３問）
　　「ローマ字の読み書き」（３問中２問）

・算数Ａ　「除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解する」
　　「直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ」

【中学校】

・国語Ａ　「漢字の読み書き」（６問中２問）
　　「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」

・数学Ａ　「資料を整理した表から最頻値を読み取る」
　　「具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくる」

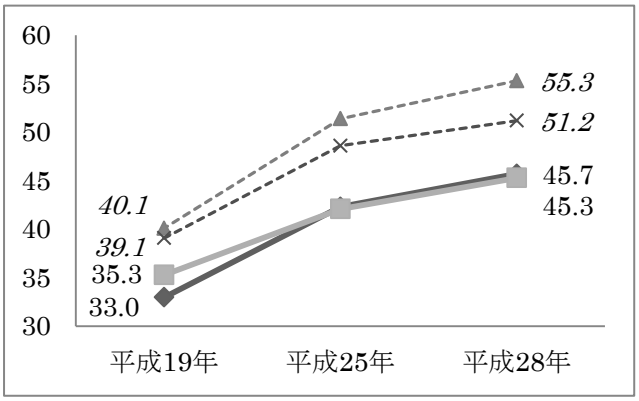
・数学Ｂ　「与えられた情報から必要な情報を選択し、相対度数を求める式を書く」

小・中学校ともに、調査問題Ａの主として知識に関する問題において、全国平均より５ポイント以上低い問題が多い。

児童生徒質問紙から

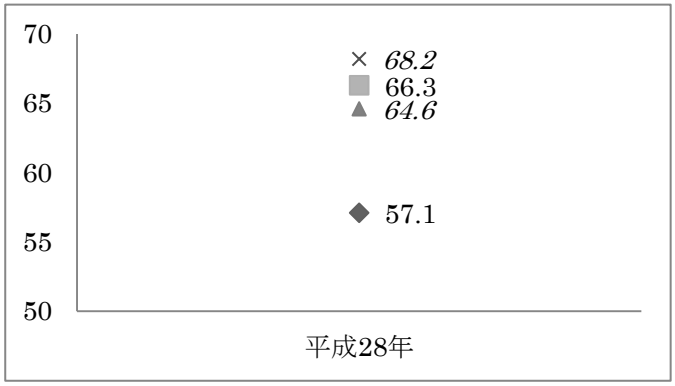
※凡例　県(小)　県(中)　国(小)　国(中)

Q.24　家で、学校の授業の復習をしていますか。



小・中学校ともに経年変化では向上しているものの、全国平均より５ポイント以上下回っている。

Q.25　家での予習・復習等やテスト勉強など自学自習において教科書を使って学習していますか。

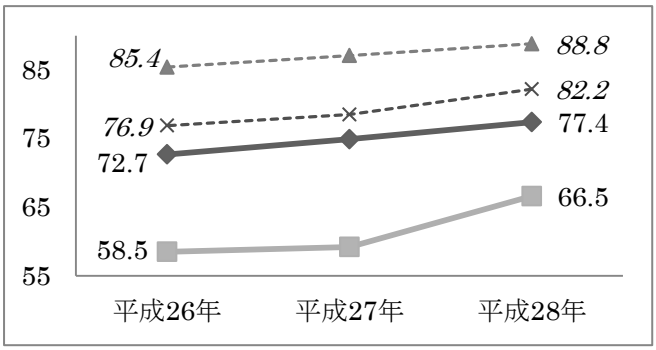


小・中学校ともに全国平均を下回っている。

学校質問紙から

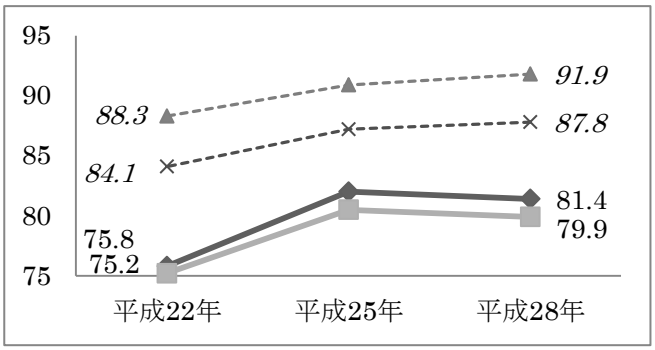
※凡例　県(小)　県(中)　国(小)　国(中)

Q(97,95)　前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。



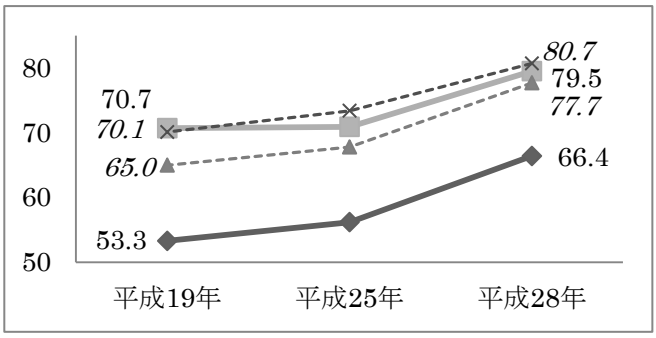
小・中学校ともに経年変化では向上しているものの、全国平均より５ポイント以上下回っている。

Q(99,97)　前年度までに、家庭学習の取組として、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。



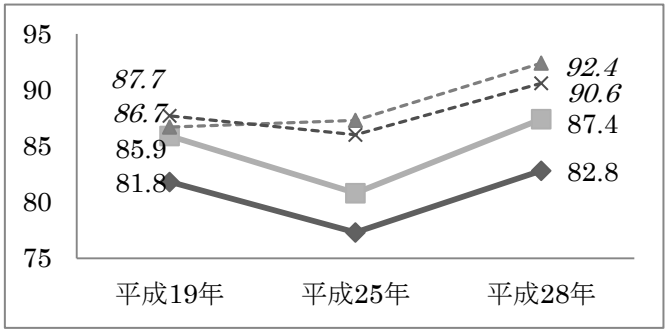
小・中学校ともに全国平均より５ポイント以上下回っている。

Q.67 児童（生徒）に対する国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか。



小・中学校ともに経年変化では向上しているものの、全国平均を下回っている。

Q.73 児童（生徒）に対する算数（数学）の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか。

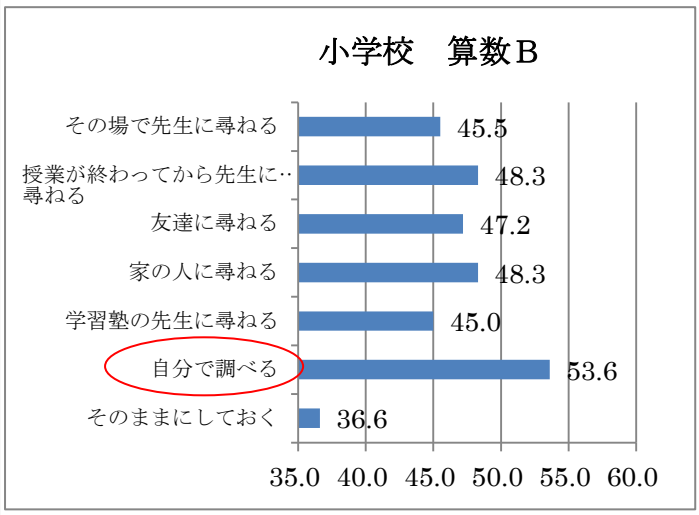


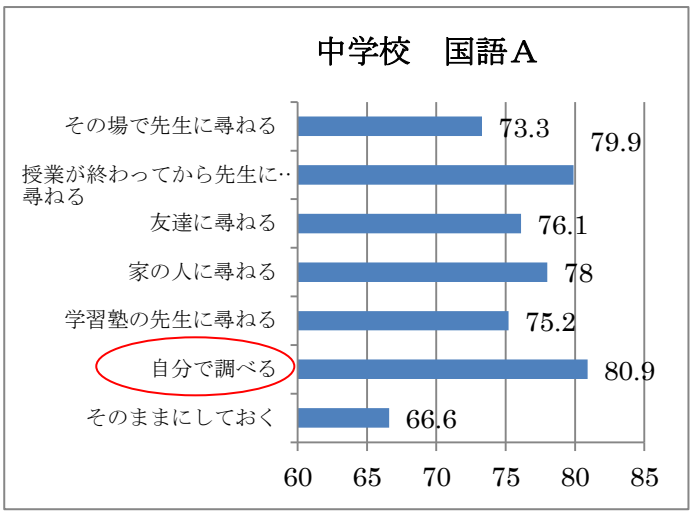
小学校が、全国平均より５ポイント以上下回っている。

ここに注目！１　「自分で調べる」という自学自習の姿勢が大切！

児童生徒質問紙と教科のクロス集計（全国）から

Q.60　授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。×　平均正答率





上のグラフは、設問 60 と平均正答率とのクロス集計です。縦軸は、回答類型、横軸は平均正答率を表します。分からないことがあったら「自分で調べる」という回答を選択した児童・生徒が最も平均正答率が高くなっています。また、「その場で先生に尋ねる」よりも「授業が終わってから尋ねる」という方が、平均正答率が高くなっています。また、「そのままにしておく」については平均正答率は最も低くなっています。自分で調べる習慣や一旦自分で考えてみるという習慣は、学力と関係があることがうかがえます。これらの傾向はここに取り上げた科目（算数 B、国語 A）だけではなくすべての校種、科目で同様の結果が出ています。

何か分からないことがあったとき、「自分で調べる」と回答した児童・生徒は平均正答率が高い傾向がみられます。また、「その場で先生に尋ねる」よりも「授業が終わってから先生に尋ねる」方が、平均正答率が高い傾向がみられます。

＜課題２＞学校は、全ての児童･生徒が自己肯定感をもち、夢や目標に向かう意欲をさらに高めていくことが必要です！

「自分にはよいところがある。」に対する肯定的回答は、経年変化では向上していますが、国との比較で低くなっています。また「将来の夢や目標を持っていますか。」に対する肯定的回答は、経年で下降傾向にあり、また国との比較でも低くなっています。

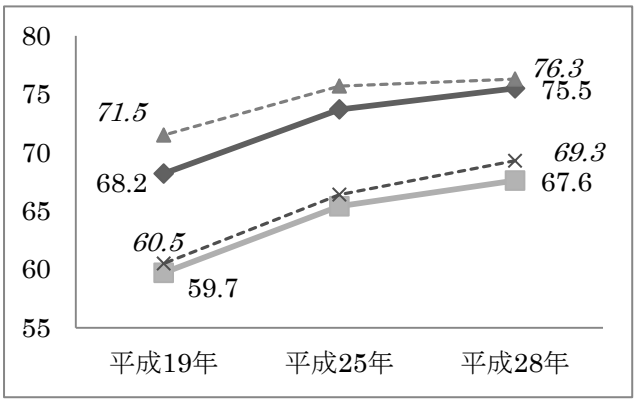
社会状況が変化する中、自分らしさを大切にし、自立して、たくましく生き抜くためには、自己肯定感を基盤とした生涯にわたる「自分づくり」がますます重要となります。児童・生徒の自己肯定感の醸成については、学校に加え、家庭でも地域でも全ての大人が意識して取り組んでいくことが必要です。

学校では、あらゆる教育活動の様々な場面で、児童・生徒の自己肯定感が高められるよう工夫していくことが、夢や目標に向かう意欲を高めていくことにもつながります。

児童生徒質問紙から

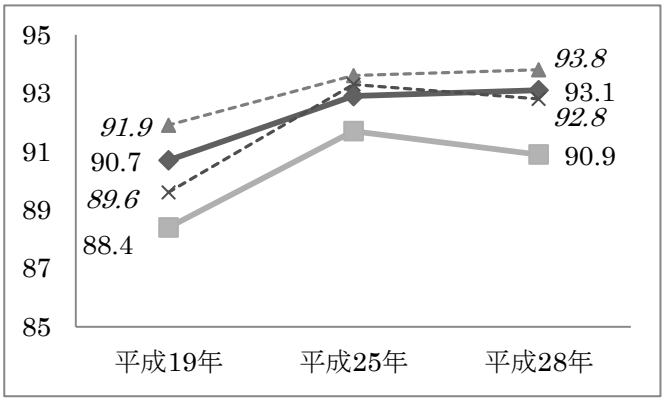
※凡例　県(小)　県(中)　国(小)　国(中)

Q6. 自分にはよいところがある。



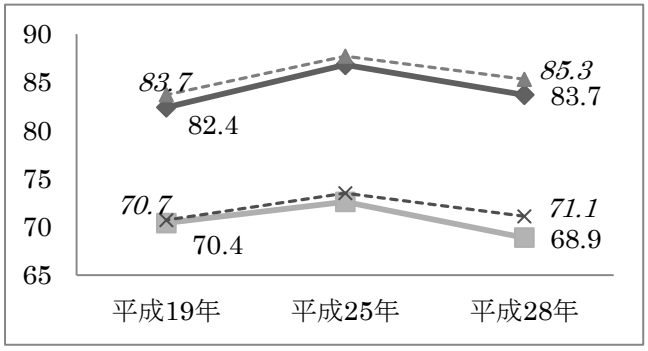
小・中学校ともに、経年変化では向上しているものの、全国平均を下回っている。

Q43 人の役に立つ人間になりたいと思う。



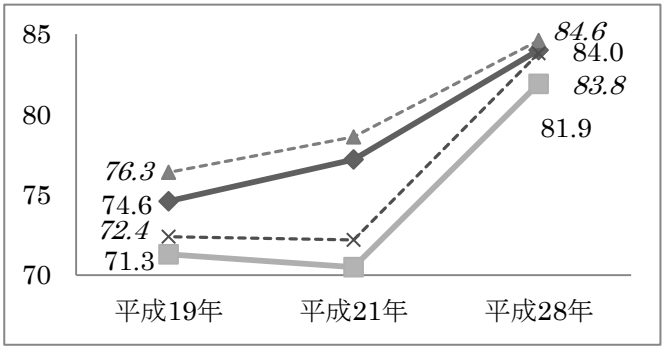
小・中学校ともに全国平均を下回っている。

Q9. 将来の夢や目標を持っていますか。



小・中学校ともに全国平均を下回り、経年変化で下降している。

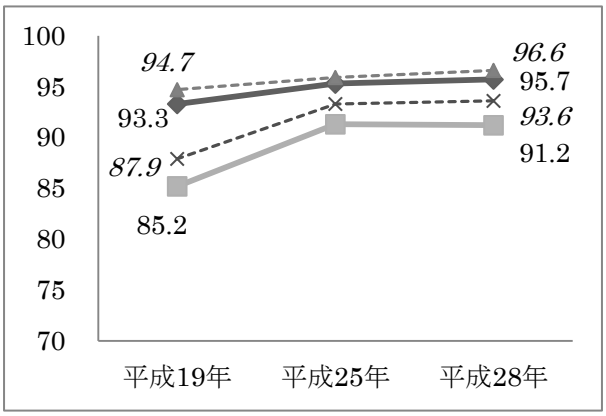
Q41. 人が困っているときには進んで助ける。



小・中学校ともに経年変化では向上しているものの全国平均を下回っている。

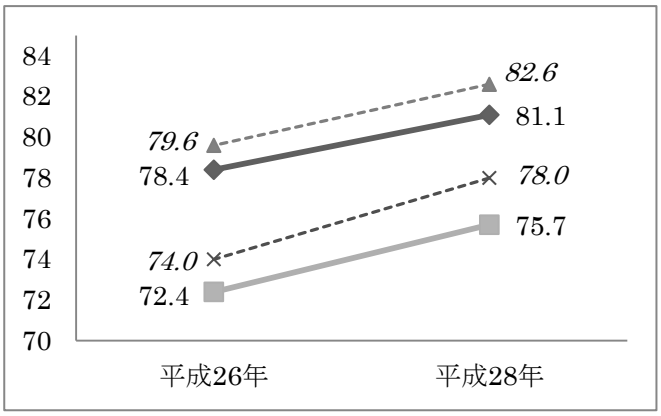
※凡例　県(小)　県(中)　国(小)　国(中)

Q42. いじめは絶対にいけないことだと思う。



小・中学校ともに経年変化では向上しているものの、全国平均を下回っている。

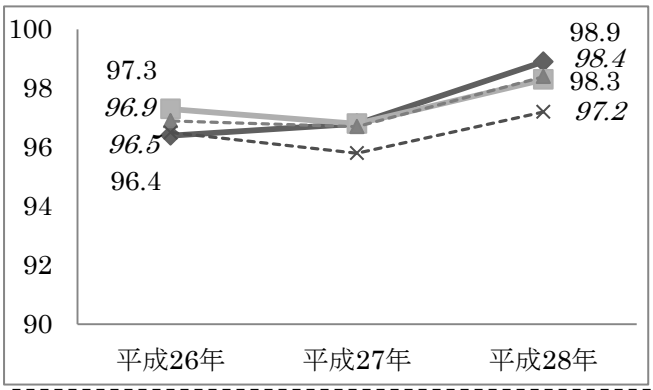
Q32. 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



小・中学校ともに経年変化では向上しているものの、全国平均を下回っている。

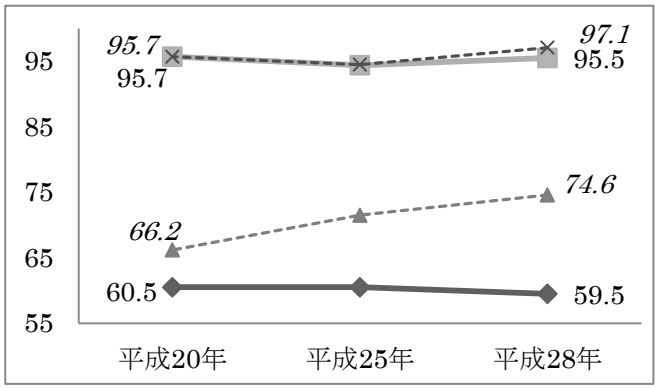
学校質問紙から

Q53. 前年度までに、学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童（生徒）に伝えるなど積極的に評価しましたか。



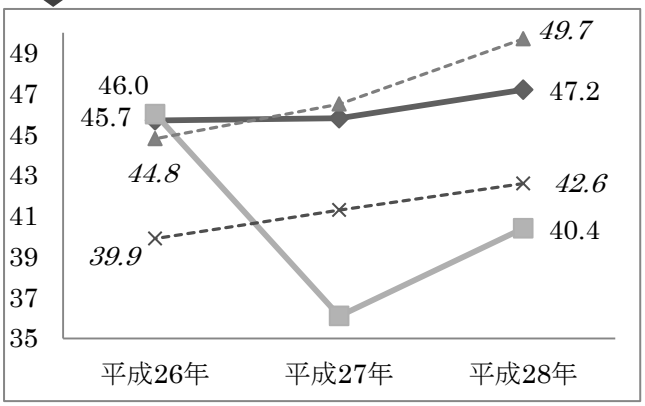
小・中学校ともに経年変化で向上しており、全国平均を上回っている。

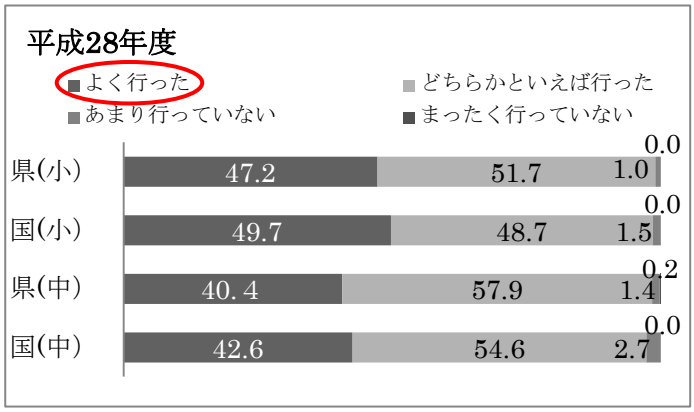
Q48. 前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。



小・中学校ともに経年変化で下降し、小学校では全国平均より５ポイント以上下回っている。

このデータをさらに細かく見て、肯定的な回答のうち最も肯定的な回答の「よく行った」と回答した学校の割合だけを抜き出したところ、全国平均を下回っていることが分かりました。



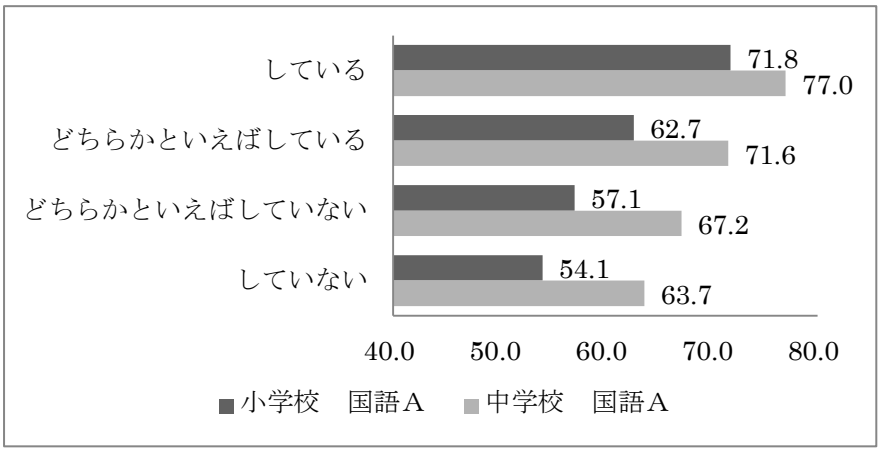


この項目は、児童･生徒の自己肯定感をはぐくむうえで、最も大切なことの一つと考えます。今後、各学校や地域において、児童･生徒一人ひとりのよい点や可能性に目を向け、児童･生徒に積極的に伝えるなど、評価の充実を目指していきたいと考えています。

ここに注目！２　規則正しい生活習慣が大切です！

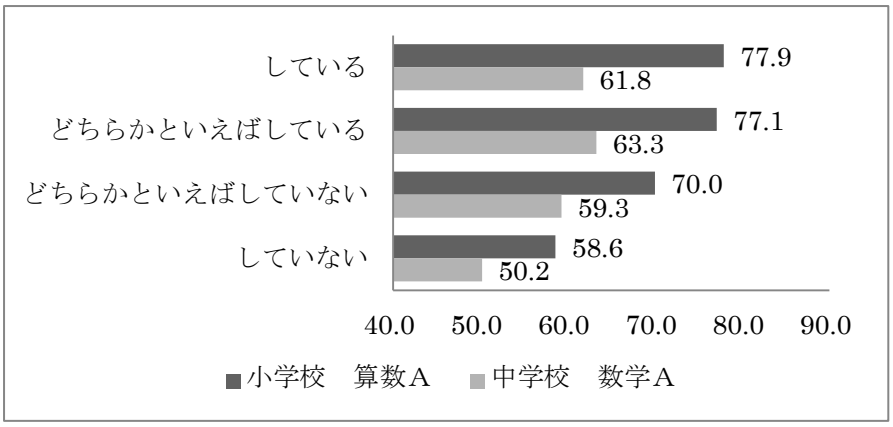
児童生徒質問紙と教科のクロス集計から（県）

Q.1　朝食を毎日食べていますか　×　平均正答率



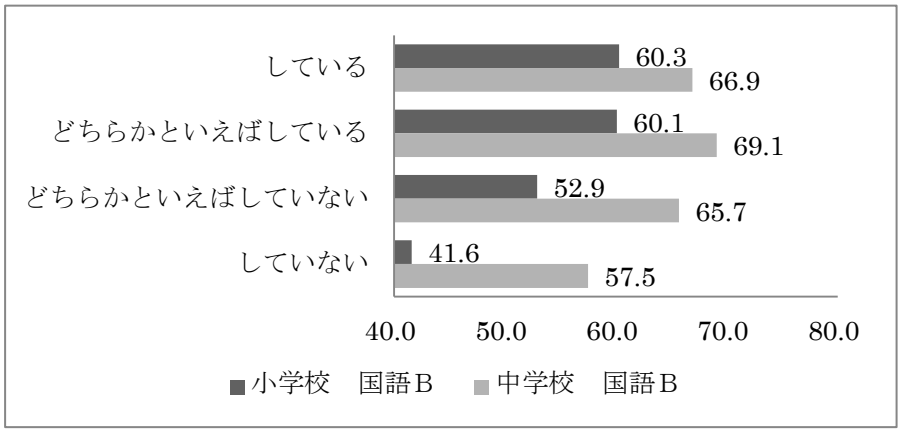
左グラフは、児童生徒質問紙と平均正答率とのクロス集計です。縦軸は、回答類型、横軸は平均正答率を表します。「朝食を毎日食べている」に、肯定的な回答をしている児童生徒ほど国語Ａの平均正答率が高い傾向が見られます。他の科目においても同様の傾向が見られます。

Q.３　毎日、同じくらいの時刻に起きていますか　×　平均正答率



「毎日同じくらいの時刻に起きている」に、肯定的な回答をしている児童生徒ほど算数Ａ・数学Ａの平均正答率が高い傾向が見られます。他の科目においても同様の傾向が見られます。

Q.２　毎日、同じくらいに時刻に寝ていますか　×　平均正答率



「毎日同じくらいの時刻に寝ている」に、肯定的な回答をしている児童生徒ほど国語Ｂの平均正答率が高い傾向が見られます。他の科目においても同様の傾向が見られます。

規則正しい生活習慣が身に付いている子どもは、学力が高い傾向がみられます。家庭では、子どもに合った食事・睡眠のリズムを子どもと一緒につくることが望まれます。

Ⅱ　神奈川県公立小・中学校における調査結果について　資料編

1　本調査の概要

（1）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

出典：平成 28 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（文部科学省）

（2）調査の方式

悉皆調査

参考　平成 19 年度～平成 21 年度：悉皆
平成 22 年度～平成 24 年度：抽出（ただし、平成 23 年度は震災で中止）
平成 25 年度～平成 28 年度：悉皆

（3）調査実施日

平成 28 年４月 19 日（火）

（4）集計学校数、集計児童・生徒数

神奈川県では 1,278 校、約 13 万９千人の児童・生徒が参加した。

内　　訳：小学校 853 校、中学校 409 校、特別支援学校 小学部６校、中学部６校、
中等教育学校２校　義務教育学校（前期）１校　義務教育学校（後期）１校

参加人数：小学校調査 約７万３千人、中学校調査 約６万６千人

＊　小学校は第６学年、中学校は第３学年が対象

（5）調査結果の解釈等に関する留意事項

○ 本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、 実施教科が国語、算数（数学）の２教科であることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

出典：平成 28 年度全国学力・学習状況調査　報告書（文部科学省　国立教育政策研究所）

（6）教科に関する調査結果の見方

○ 本調査の結果で示されている本県の平均正答率については、次の２つの観点を踏まえ整理している。

＊ 平均正答率 80％以上…成果として認められる。
＊ 平均正答率 70％未満…課題として考えられる。
（出典：全国学力・学習状況調査の４年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ
平成 24 年３月　国立教育政策研究所）

＊ 全国の平均正答率（公立）の±５％の範囲内にあれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。
（出典：平成 28 年度全国学力・学習状況調査　報告書　平成 28 年８月　文部科学省　国立教育政策研究所）

２　教科に関する調査の結果

（１）　結果の概要

ア　平均正答数・平均正答率

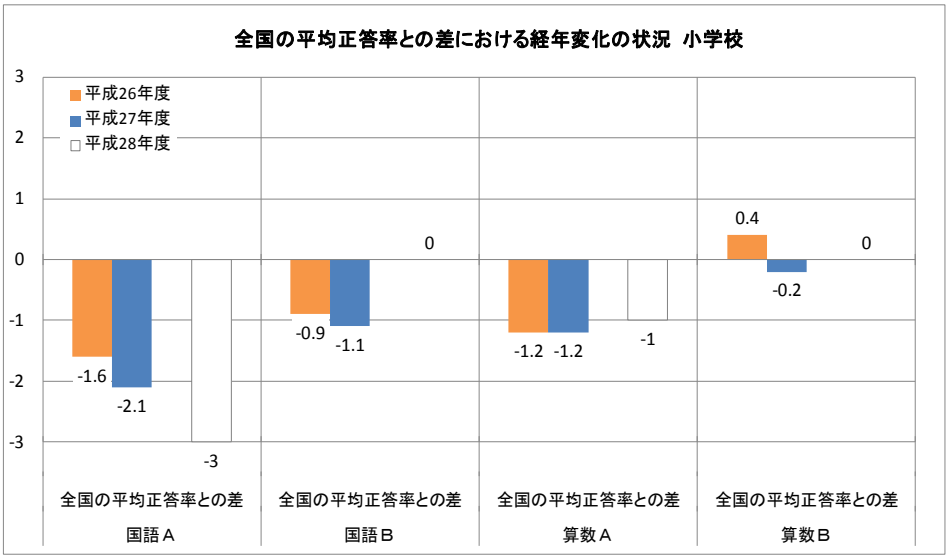
※A：主として「知識」に関する問題　B：主として「活用」に関する問題
※平成 28 年度の平均正答率については、小数点以下を四捨五入した整数値で示す。

平成28年度	小学校調査								中学校調査							
	国語				算数				国語				数学			
	A（15問）		B（10問）		A（16問）		B（13問）		A（33問）		B（9問）		A（36問）		B（15問）	
	正答数（問）	正答率（%）	正答数（問）	正答率（%）	正答数（問）	正答率（%）	正答数（問）	正答率（%）	正答数（問）	正答率（%）	正答数（問）	正答率（%）	正答数（問）	正答率（%）	正答数（問）	正答率（%）
神奈川県	10.6	70	5.8	58	12.2	77	6.1	47	24.9	75	6.0	67	22.3	62	6.6	44
全　国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44
差	-0.3	-3	0.0	0	-0.2	-1	0.0	0	-0.1	-1	0.0	0	-0.1	0	0.0	0

（文部科学省平成 28 年度全国学力･学習状況調査の結果をもとに子ども教育支援課が作成）

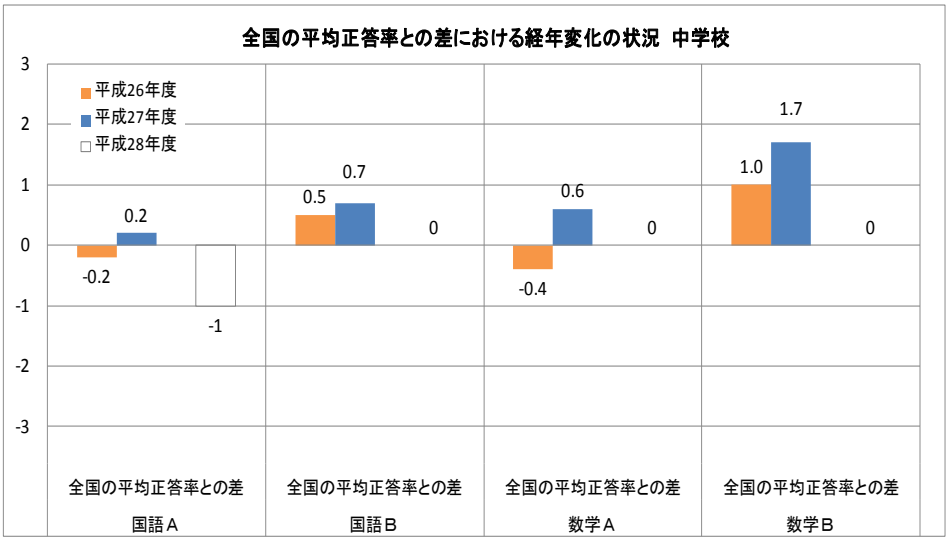
・全科目の調査結果について、全国公立学校の平均正答率と±５％以内であり、全国と大きな差は見られなかった。

イ　平均正答率における経年変化の状況（直近３年間）



・Ａ問題において、国語、算数ともに、各年度で全国を下まわった。

・国語Ａにおいては、全国との差は年度を追うごとに開いていく傾向が見られる。



・Ｂ問題においては、国語、数学ともに、全国を上まわる傾向があったが、平成 28 年度は全国と同程度であった。

（文部科学省平成 28 年度全国学力･学習状況調査の結果をもとに子ども教育支援課が作成）

（２）　教科別の特徴

ア　小学校　国語

（ア）平均正答率が高かった事項

① 漢字を正しく読むこと

〇漢字を読む設問　：貯金(神奈川県：98.3％　　全国：98.5％)

② 目的に応じて、図と表とを関係付けて読むこと

〇公園案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合うものを選択する

(神奈川県：93.0％　全国：93.1％)

（イ）平均正答率が低かった事項

① 平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと

〇ローマ字を書く設問　：あさって(神奈川県：35.5％　　全国：41.8％)

② グラフを基に、分かったことを的確に書くこと

〇「早ね早起き」活動の成果について、〈図１〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する(神奈川県：44.1％　全国：43.4％)

（ウ）全国公立学校の平均正答率より５ポイント以上低かった事項

① 学年別配当表に示されている漢字を読むこと
学年別配当表に示されている漢字を書くこと

読むこと：省く　(神奈川県：73.4％　全国：81.0％)
書くこと：親しい(神奈川県：68.4％　全国：73.8％)
相談　(神奈川県：57.7％　全国：64.2％)

② 平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと

読むこと：ｈｙａｋｕ(神奈川県：44.5％　全国：50.7％)
書くこと：あさって　(神奈川県：35.5％　全国：41.8％)

（エ）改善の手立て

① 漢字の指導については、漢字を字形に注意しながら繰り返し書く学習にとどまらず、習った漢字を読んだり書いたりする機会を意図的計画的に設定し、日常的に文や文章の中で適切に使えるような指導が必要です。

② ローマ字の指導については、情報機器の活用や他の学習活動等との関連が考慮され第３学年の指導事項とされています。当該学年での学習にとどまらず、第４学年以降も繰り返し読んだり書いたりする機会を増やし、児童がローマ字を読んだり、書いたりする必要性を感じることができるように指導することが大切です。

イ　中学校　国語

（ア）平均正答率が高かった事項

① 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと

〇適切な語句を選択する設問（厳しい挑戦だということは、もちろん分かっています）

(神奈川県：97.6％　全国：97.9％)

② 文脈に即して漢字を正しく読むこと

〇 漢字を読む設問(全２題)：封筒　　(神奈川県：97.4％　全国：97.6％)

（イ）平均正答率が低かった事項

① 文脈に即して漢字を正しく書くこと

○ 漢字を書く設問（今までにないドクソウ的な考えだ）（神奈川県：26.9%　全国：26.1%）

② 文字の形や大きさ、配列に注意して書くこと

○ 題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する設問(神奈川県：39.9%　全国：36.4%)

（ウ）全国公立学校の平均正答率より５ポイント以上低かった事項

① 文脈に即して漢字を正しく読むこと

○ 文脈に即して漢字を正しく書くこと

読むこと：敬う（神奈川県：76.7%　全国：82.6%）

書くこと：研究（神奈川県：78.0%　全国：83.5%）

② 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと

○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問　（追ひし）（神奈川県：74.8%　全国：80.2%）

（エ）改善の手立て

① 漢字を書くことについては、習った漢字を日常的に使用するように指導することが大切です。また、漢字を読むことについては、文脈の中でどのような意味で用いられているかを理解しながら読むように指導することが大切です。

② 文語のきまりについては、古典などの文章を音読したり朗読したりすることを通して習得できるように指導することが大切です。

ウ　小学校　算数

（ア）平均正答率が高かった事項

① 不等号を理解していること

○二つの数の大小関係を表す不等号を書く設問（神奈川県：96.4%　全国：96.7%）

② 示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べること

○ １辺が９ｃｍの正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値の組み合わせを書く設問（神奈川県：92.9%　全国：92.6%）

（イ）平均正答率が低かった事項

① 示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できること

○ 示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く設問（神奈川県：7.8%　全国：6.9%）

② 示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できること

○目標のタイムを求める式の中の０．４や０．３が表す意味を書く設問（神奈川県：16.2%　全国:15.6%）

（ウ）全国公立学校の平均正答率より５ポイント以上低かった事項

① 直方体における面と面の位置関係を理解していること

○ 直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ設問（神奈川県：72.9%　全国：78.0%）

② 除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解していること

○ ２．１÷０．７を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く設問（神奈川県：63.5%　全国：68.5%）

（エ）改善の手立て

① 立方体や直方体の、面と面の位置関係については、具体物の観察や操作を通して理解できるようにすることが大切です。
② 小数の除法の計算において、除法の性質の理解の上に立って、整数の除法の計算と同じようにできることを具体的な数において、確認する場を設けることが大切です。
③ 具体的な場面において、式の意味やその中の数値の意味を説明する活動、記述する活動を設けることが大切です。

エ　中学校　数学

（ア）平均正答率が高かった事項

① 正の数と負の数の加法の計算
○ －３＋(－７)を計算する設問（神奈川県：92.0%　全国：91.6%）

②２つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、２つの二元一次方程式で表すこと
○ 方程式 $2x+y=x-y=3$ から、 x と y の値を求めるための連立方程式を完成させる設問
（神奈川県：89.0%　全国：89.7%）

（イ）平均正答率が低かった事項

① 与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明すること
○ 文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する設問
（神奈川県：17.3%　全国：15.4%　無答率　神奈川県：40.4%　全国：41.5%）

② 加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明すること
○ $x=4$ のとき $y=9$ になるように、x と y の間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する設問（神奈川県：19.8%　全国：20.6%）

（ウ）全国公立学校の平均正答率より５ポイント以上低かった事項

① 資料を整理した表から最頻値を読み取ること
○ 読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める設問
（神奈川県：39.5%　全国：45.5%　無答率　神奈川県：20.3%　全国：17.4%）

② 与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる与えられた情報から必須な情報を選択し、的確に処理すること
○ ２５．５cm の靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く設問
（神奈川県：25.9%　全国：31.1%　無答率　神奈川県：40.2%　全国：33.5%）

③ 具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくること
○ 縦と横の長さの比が ５：８ の長方形の看板について、縦の長さが４５cm のときの横の長さ x cm を決めるための比例式をつくる設問
（神奈川県：47.3%　全国：52.3%）

（エ）改善の手立て

① 目的に応じてデータを収集して整理し、資料の傾向を読み取る活動を取り入れ、代表値や相対度数の必要性と意味の理解を深めることが大切です。
② 具体的な場面における数量の関係を見いだし、比例式をつくることができるようにするために、図をかくなど比と数量の関係を視覚的に捉える活動を取り入れることが大切です。
③ 具体的な場面において、問題解決の方法を数学的に説明する活動や理由を説明する活動を、取り入れることが大切です。

３　質問紙調査の結果

（１）　児童生徒質問紙調査の結果

ア　全国に比べ高い数値を示した事項

①　家で学校の予習をしている。

【小学校】神奈川県 41.4%　全国 43.3%　（−1.9）

【中学校】神奈川県 39.2%　全国 34.2%　（+5.0）

①について、中学校において、家で学校の予習をしている生徒の割合は全国に比べ高く、学習への意欲が高いことがうかがえます。

②　平日、１日２時間以上携帯やスマホでメールやインターネット等を行う。

【小学校】神奈川県 10.9%　全国 10.4%　（+0.5）

【中学校】神奈川県 36.4%　全国 30.1%　（+6.3）

②について、中学校において、１日２時間以上携帯やスマホでメールやインターネット等を行っている生徒の割合が全国に比べ高いです。クロス集計では、１ 日 30 分より少なく携帯やスマホでメールやインターネット等を行っている生徒の平均正答率が高い傾向が見られています。

イ　全国に比べ低い数値を示した事項

①　平日、学校以外で１日１時間以上勉強する。

【小学校】神奈川県 56.9%　全国 62.5%　（−5.6）

【中学校】神奈川県 70.6%　全国 67.9%　（+2.7）

①については、小学校において、学校以外で１時間以上勉強している児童の割合が全国に比べ低いです。学校以外での学習習慣を身に付けることが望まれます。

②　学校の図書室や地域の図書館に週１回程度以上行く。

【小学校】神奈川県 10.5%　全国 16.4%　（−5.9）

【中学校】神奈川県 6.4%　全国 7.6%　（−1.2）

②については、小学校において、学校の図書室や地域の図書館に週１回程度以上行く児童の割合が全国に比べ低いです。授業等での効果的な活用や読書習慣の奨励が望まれます。

③　家で学校の復習をしている。

【小学校】神奈川県 45.7%　全国 55.2%　（−9.5）

【中学校】神奈川県 45.3%　全国 51.0%　（−5.7）

④　家での予習・復習等で教科書を使って学習する。

【小学校】神奈川県 57.1%　全国 64.6%　（−7.5）

【中学校】神奈川県 66.3 %　全国 68.2%　（−1.9 ）

③、④については、<課題１>に掲載しました。

⑤　地域の行事に参加している。

【小学校】神奈川県 61.6%　全国 67.9%　（−6.3）

【中学校】神奈川県 38.6%　全国 45.2%　（−6.6）

⑤について、地域の行事に参加している児童・生徒の割合は全国に比べ低いです。県内でも地域によって実情に差があることが予想されます。今後も、地域の特色に応じた取組の充実が望まれます。

⑥「総合的な学習の時間」の勉強は好きだ。

【小学校】神奈川県 77.5%　全国 77.2%　（+0.3）

【中学校】神奈川県 62.8%　全国 68.3%　（−5.5）

⑦「総合的な学習の時間」の学習は生活や社会で役立つと思う。

【小学校】神奈川県 82.3%　全国 83.2%　（−0.9）

【中学校】神奈川県 64.3%　全国 72.8%　（−8.5）

⑥、⑦について、中学校において、生徒が「総合的な学習の時間」を通して、その有用性を実感できる取組を行うことが望まれます。

（２）　学校質問紙調査（小学校及び中学校）の結果

ア　全国に比べ高い数値を示した事項

①　ボランティア等による授業サポート（補助）を行った。

【小学校】神奈川県 62.4%　全国 48.1%　（＋14.3）

【中学校】神奈川県 42.5%　全国 29.8%　（＋12.7）

①について、小・中学校ともに、ボランティア等による授業サポート（補助）を行っている学校の割合が全国に比べ高いです。今後も、地域の方々とともに教育活動を充実させることが大切です。

②　近隣の中（小）学校と意見を交換し合うなど、教員同士の交流を行った。（小中連携）

【小学校】神奈川県 88.6%　全国 80.0%　（＋8.6）

【中学校】神奈川県 91.6%　全国 85.0%　（＋6.6）

②については、【強み３】に掲載しました。

イ　全国に比べ低い数値を示した事項

①　国語の授業においてコンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を月１回以上行った。

【小学校】神奈川県 37.7%　全国 42.7%　（－5.0）

【中学校】神奈川県 12.9%　全国 20.2%　（－7.3）

②　算数（数学）の授業においてコンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を月１回以上行った。

【小学校】神奈川県 42.3%　全国 51.0%　（－8.7）

【中学校】神奈川県 18.9%　全国 31.6%　（－12.7）

①、②について、小・中学校ともに、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を月 1 回以上行っている学校の割合が全国に比べ低いです。各自治体により、配備状況などが異なる状況も考えられます。今後も、単に活用頻度を増やすということでなく、効果的な活用方法や場面について研究を進めていくことが必要です。

③　調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている。

【小学校】神奈川県 82.5%　全国 93.2%　（－10.7）

【中学校】神奈川県 82.3%　全国 90.0%　（－7.7）

④　昨年度の分析結果について、近隣等の小（中）学校と成果や課題を共有した。

【小学校】神奈川県 36.2%　全国 49.5%　（－13.3）

【中学校】神奈川県 41.4%　全国 53.9%　（－12.5）

③、④について、自校の調査結果を分析し、自校の強みや課題を学校全体で共有するとともに、保護者や地域にも知ってもらい、ともに学力向上に向けて取り組むことが必要です。

⑤　家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った。

【小学校】神奈川県 77.4%　全国 88.8%　（－11.4）

【中学校】神奈川県 66.5%　全国 82.1%　（－15.6）

⑥　家庭学習の取組として、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした。

【小学校】神奈川県 81.4%　全国 91.9%　（－10.5）

【中学校】神奈川県 79.9%　全国 87.8%　（－7.9）

⑤、⑥については、＜課題１＞に掲載しました。

Ⅲ　神奈川県教育委員会の主な取組について

かながわの強みを伸ばすために
・基盤となる学級づくり
・主体的・対話的で深い学びの推進、児童･生徒を中心に据えた学校研究の推進
・小中９年間を見通した教育課程の編成

課題を改善するために
・一人ひとりの児童･生徒が学んだことをしっかり身に付けるために
①自分の学習状況の客観的な把握
②苦手克服のための学習の手立て
③自分で計画した自学自習を進めるための手立て　等
を振り返る機会の提供
・自己肯定感を高めるため学校･保護者･地域とのさらなる協働

神奈川県教育委員会では、かながわの強みをのばし、課題を改善するために、次のとおり、学力向上の取組に努めている。

■かながわ元気な学校ネットワークの推進（Ｈ23～）

産・官・学・民からの委員で構成する「かながわ元気な学校ネットワーク推進会議」（H23.8 設置）を推進母体に、すべての子どもたちを元気にし、教職員・保護者も、さらに地域の人たちも元気にするような学校づくりを推進する。

■学びづくり推進地域研究委託事業（Ｈ20～）

市町村において、学習指導の成果や課題を明確にし、学力向上や学周意欲の向上，学習に関する学校や家庭、地域の役割や連携について研究する。

■学級経営支援事業（Ｈ27～）

小学校における学級経営の充実に向け、経験豊かな退職教員を非常勤講師として派遣し、課題を抱える児童や学級に対し、継続的指導・支援を行い、問題行動等の未然防止を図るとともに、その成果について周知する。

■かながわ学力向上シンポジウム（Ｈ19～）

学校、家庭、地域の教育力の向上に資するテーマを設定し、幅広い参加者を募り意見交換等を行うことで、学校教育への理解を図る。

■小中一貫教育推進事業（Ｈ27～）

少子化に伴う学校の再編統合を検討している市町村への支援を含め、県全体として質の高い教育を維持向上させていくための方策として、小中一貫教育校の推進に取り組む。

■コミュニティ・スクール（H22～）

学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みにより、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを推進する。

■神奈川県公立小・中学校学習状況調査（S24～）

児童・生徒の学習状況や成果を調査するため、全国学力・学習状況調査の課題等を反映した学力調査を行い、教科指導等における指導方法の工夫改善を学習に役立てる。

■課題解決教材（H24～）

児童・生徒の一人ひとりの学習課題の解決に役立てるため、神奈川県公立小・中学校学習状況調査実施後に見えてきた学習課題を解決するための練習問題やワークシートなどの教材を作成し、ホームページに掲載することで、事後指導の取り組みの改善を図る。

参考ＵＲＬ

＜全国学力・学習状況調査の結果について＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f531252/

＜学校運営の重点、学校教育指導の重点及び各教科等の指導の重点＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6685/

＜かながわの学びづくりプラン＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f300518/

＜必携　かながわの学びづくり＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f534702/

＜かながわ学びづくり推進地域の取組について＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f534289/

＜「確かな学力を育てるために」学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417749/

＜学習評価関連資料＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6679/

＜子どもが輝く学級経営につながる学級担任の指導のポイント＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f535066/

＜小中一貫教育の推進について＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f533778/

＜Let’ s challenge!課題解決教材＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417579/

＜かながわ元気な学校づくり通信「はにい」＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420082/

＜かながわ「いのちの授業」＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417796/

＜資料「わたくしたちの生活と進路」について＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6687/

＜外国につながりのある児童・生徒への指導・支援の手引き＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420361/

＜いじめ問題への対応について＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f470374/

＜いじめを絶対に許さない―緊急アピール―＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420446/

＜神奈川県児童・生徒の問題行動等調査の結果について＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7508/

＜子どもの安全を守る６つの点検＞
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f532524/

＜小学校・中学校「関心・意欲・態度」を育てるための学習評価を踏まえた授業づくり実践事例集＞
http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h27/pdf/27002学習評価.pdf

＜インクルーシブな学校づくり　Ver.1.0＞
http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h27/pdf/インクルーシブリーフレット.pdf

＜支援を必要とする児童・生徒の教育のために（平成28年３月版）＞
http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/soudanSnavi/tameni_h28_3.html

＜学習評価を踏まえた授業づくりのために＞
http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/h26/pdf/26001学習評価.pdf

＜いじめのない学校づくりのために～小学校・中学校・高等学校・特別支援学校　校種を越えたメッセージ～＞
http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/Snavi/kadaiSnavi/pdf/いじめのない学校づくりのために.pdf

＜県立総合教育センターの刊行物一覧＞
http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/index.html

＜国立教育政策研究所　教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」＞
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html